

第2次豊中アジェンダ 21 リーディングプロジェクト  
豊中のリユースに関する提言

**1. 本提言における「リユース」とは**

- ・モノを再利用、使い回すこと。
- ・まだ使っていないが家で余っている「新品」を、他で使ってもらうこと。
- ・どんなに良くてまだ使えるものでも、処分に困れば「ごみ」として出さざるを得ない現状を改善し、使い回せたり、買ってもらえるようにすること。
- ・古着で草履を編む・端材で棚を作るなど、モノを再利用して手作りすること。
- ・利用しなくなったもののうち、やや状態の良いものや、状態は悪くないが他人に譲るのはためらうものなどを使ってもらうこと（状態の良いものや高価なものはオークションに出されるなど価値があるものとして基本的には対象外と考える）。

**2. 本提言に関する当グループの考え方**

- ・現在の豊中市内でのリユースは、市民や行政の認識、実際の取り組みの実情などにおいて、十分なものと言えるだろうか？という疑問を共有。
- ・すでに取り組みされている団体・行政・民間のリユースは、個別に取り組んでいる側面が強いように感じる。連携・協力などをもっと進められたらという思いを共有。
- ・市内のリユースを強化するために実現したいことはたくさんあるが、すべてを一度に達成することは難しいため、可能などころから段階的に取り組んでいくことが大切だと考える。
- ・将来的には、行政が確保したリユース品を、市民活動などの分野で有効的に活用していけたらという思いもある。
- ・3Rの取り組みは、行政の制度や仕組みが推進のハードルとなっていることもある（後述するクリーンランドやリサイクル交流センターの課題の中で詳述）。リユースを推進していくために、行政も現在の制度や仕組みを見直すことに一歩踏み出すことを期待したい。
- ・提言として記載したリユース品の持ち込みに関して、リユースできる物品かどうかの判断方法や物品の持ち込み方（衣服の場合、再度洗濯するかなど）については、今後、実施段階に入った時に具体的に検討することが適していると考えて、今回はそこまで言及していない。
- ・リユースの取り組みとあわせて、モノを大切にしたいや具体的な方法を学び合う取り組みも大切にしたい。「リユース品だから質が低くてかまわない」「すぐに捨てても／あげてしまってもかまわない」とならないように（大量消費・大量廃棄を是としてしまわないように）。
- ・提言の中で提起している取り組みは、現在の課題を解決する方策であるとともに、環境学習としての役割も有し、これまでとは異なった多様な層（小中高、大学生、留学生や子育て中の保護者など）の参加が得られることも考えている。

### 3. クリーンランドのリユースコーナーに対する提言

#### (1) 現在の状況

- ・現在のリユースコーナーは、年に4回、期間を限ってクリーンスポーツランドの1階に設置している。
- ・1回あたり30～35点で、希望者を募集し、抽選で当選者に提供している。
- ・応募は1回につき1世帯1点のみで、出品1点に対して0人～10数人の応募があり、当選者が当選品を持ち帰る。
- ・それ以外で、環境展などのイベントに出品することもある。
- ・リユース品は、クリーンランドに市民などが直接持ち込まれた臨時ごみ（持ち込みごみ）から同意を得て引き抜いている。

#### (2) 課題

- ・リユース品の確保は、持ち込みごみからの引き抜きだけで行っているが、リユースできる物品は環境部が収集している粗大ごみの方が圧倒的に多い。
- ・家電や自転車は安全面から扱うことは難しいため、基本は家具類に限られる。
- ・当選者が自分で持ち帰るため、大型の家具などは引き抜きにくく、小型の棚などが中心となる。
- ・リユースコーナーの物品の保管場所自体も限られており、リユースできる数が限られている。
- ・4月から新しくオープンするスリー・Rセンターの中にも保管場所を確保できないかクリーンランドでも模索している（2012年2月現在）。

#### (3) 改善するための提案

##### <短期的な取り組み>（すぐに取り組めること）

- ・クリーンランドは独立しているため、豊中・伊丹両市の収集との連携が重要。
- ・クリーンランドに持ち込まれるごみより、環境部が回収に行く臨時ごみの方が多いので、これらをリユースできる仕組みをつくると、リユース施策の拡充になる。  
→現場で物品を見て値段を計算するので、リユースできるものを計算前に引き抜く
- ・クリーンランドの敷地内等に、リユース品を保管する場所を確保する。
- ・以前にクリーンランドで行っていた自転車修理の道具類を探して活用を検討する。

##### <中長期的な取り組み>（今後も検討を踏まえて取り組むこと）

- ・市民が購入した処理券を貼った粗大ごみも市民の同意があればリユースできる仕組みをつくる。  
→野洲市・大津市・草津市では粗大ごみの処理券にリユースにまわしても良いという同意欄があり実際に施策展開しているため、そうした仕組みの導入は十分に可能。
- ・リユース品が常に確保できたら、年間を通じてリユース品を供給・提供するとともに、市民がリユースしたいモノをクリーンランドへ持ち込めるようにする。

## 4. リサイクル交流センターに対する提言

### (1) 現在の状況

- ・豊中市が直営しており、会議室の貸し出し、パネル展示、月数回の工作教室、不用品交換ボード、牛乳パック・ペットボトル・トレイなどの回収を行っている。
- ・2011年度の来場者数は4,851人であった。
- ・2011年11月より、陶器とりかえボックスが設置された。
- ・2013年4月より、「環境交流センター」として環境学習などを主とした施設に機能変更し、指定管理者の運営となる予定。

### (2) 課題

- ・3Rを推進する拠点として、3Rの取り組みが不十分であり、特にリユース関係は不用品交換ボードくらいしかない。
- ・リサイクル交流センターにいる職員は臨時職員のため、3Rに関する専門性が弱い。
- ・会議室利用などの際は来場者もいるが、日常的には閑散とした印象なのが残念。ロビーはパネルボードしか見えず、活用できていないため、人がいないのをより感じてしまうことも残念（ロビーは少し改善しつつある）。
- ・過去はバザーなども行われたが、現在はまったく行われていない。
- ・駐車場がないため、物品のリユースなどを進めようと思っても、来場者などが車で来ることが困難である。

### (3) 改善するための提案

<短期的な取り組み>（すぐに取り組めること）

- ・2013年度に指定管理者に移行してからはリユースコーナーを定期的に行う。  
→あまり大きくないものは施設にストックすることも検討する。
- ・クリーンランドのリユースコーナーを交流センターに出張する。
- ・可燃のゴミ袋に入ってしまうようなカバン・服などのリユースは、収集してクリーンランドに持ち込まれたら分別ができないため、交流センターをメインとして、市民に直接持ち込んでもらうようにする。
- ・当グループが行った「くるくる大作戦」に相当する内容を実施し、単に物品をリユースするだけでなく、リユース品を提供してもらった人の想いも循環できるような仕掛けにする。
- ・リユース品の修理を体験してもらうなど実践の場「工房」を作る（道具の使い方も学ぶ）。
- ・リユースに関連する物品（リユース食器など）の貸し出しを行う。
- ・来場者の交流の場として、カフェスペースを作る。
- ・外を歩く人が、ロビーに賑わいを感じられるような「見える化」をする。
- ・市は、利用者の利便性向上と、物品の搬入出をスムーズにするため、車の駐車スペースや一時停車について改善をはかる。
- ・日替わり・週替わりなどのスペースを作り、いろんな団体に参加してもらう方法も

ある。

<中長期的な取り組み>（今後も検討を踏まえて取り組むこと）

- ・クリーンランドで集めたリユース品を修理して、修理の手間代などをもらって販売する、または交流センターの指定管理者が、リユース品を家庭に有料で運搬する。
- ・環境部で確保したリユース品を、交流センターに直接持ち込んで活用する。
- ・交流センターを拠点に、次世代の後継者育成をめざす。具体的には、高校や大学と連携し、高校生や大学生が力を発揮できるような取り組みを行う。

## 5. その他・備考

### (1) 民間への配慮

- ・民間のいわゆるリサイクルショップなども増えているため、行政によるリユース品の提供が充実していけば、民業圧迫につながる懸念がある。一方で、現在の実施状況では、そうした懸念の段階には遠く及ばないため、取り組みを普及していくにつれて、検討・整理していくべき課題と考える。
- ・そうした検討・整理の際には、リユース品を無償ではなく、確保のためにかかる費用の一部を受益者負担してもらい、または、リユース品を市民団体などに活用してもらい手立てを検討することが必要と考える。

### (2) 有料／無料について

- ・民間への配慮や受益者負担、リユース品を循環させるために必要な費用の回収などによって、本提言では一定の費用徴収を記載しているが、すべてのリユース品が対象となるわけではない。
- ・例えば、大阪市の取り組みにおける、赤ちゃんの肌着を2点まで無料でもらえるなど、同様の物品が大量にある場合などは、無料であっても良いと思う。
- ・一方で、工作体験を実施した場合、無料であれば作成したモノをすぐに捨てる、持ち帰らないなどの事例もあるため、対策としてわずかな金額でも徴収する方が望ましいケースもある。

## 活動の概要・経過について

## (1) 実施目的・提案主体

- ・「第2次豊中アジェンダ21」（策定主体：とよなか市民環境会議）を策定するにあたり、2009年度に市民ワークショップを開催した。市民ワークショップは、とよなか市民環境会議の事務局である豊中市環境政策室を中心に、「豊中アジェンダ21」の推進組織であるNPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21（以下、「NPOアジェンダ」とする）が協力して9回開催し、延べ137人が参加した。
- ・市民ワークショップで出された意見は、「第2次豊中アジェンダ21」の「望ましい環境像」などへ反映するとともに、意見を踏まえて、これまでの「豊中アジェンダ21」の推進において取り組む機会がなかった4つのプロジェクトを設定した。
- ・4つのプロジェクトは、NPOアジェンダの既存の部会活動などとは切り離し、2010年度以降、新たな参加者を巻き込んで、市民・行政が参加して一緒に考えながら試行した。
- ・4つのプロジェクトにより実施した行事は、とよなか市民環境会議（「第2次豊中アジェンダ21」の策定主体）と、NPOアジェンダ（「第2次豊中アジェンダ21」の推進組織）の共催と位置づけた。
- ・また、市民ワークショップの開催・進行、リーディングプロジェクトの展開においては、大学関係の協力・アドバイスも得て実施した。
- ・この提言は、4つのプロジェクトのうちの1つ、【リユースに取り組んでいる団体や施設を把握し、必要であればその活動をサポートし、市民がリユースしやすくなる情報発信を行う】プロジェクト（いわゆるリユースグループ）による。
- ・この提言は、リユースグループの2年間の活動のまとめとして整理した。

## (2) メンバー 6人

新開 悦子、鹿島 隆、寺島 正明（以上、市民として参加）  
山根 歩（とよなか市民環境会議事務局（豊中市環境政策室））  
廣田 学（リーディングプロジェクトの事務局（NPOアジェンダ事務局））  
永橋 爲介（アドバイザー（立命館大学））

## (3) 活動回数 合計26回

（内訳）2010年度：11回（全体会3回含む）

2011年度：13回（くるくる大作戦の当日を含む）

2012年度：2回

## (4) 活動の概要（2010年5月～2012年4月）

- ①リユースに関する施設や、民間のリユースの取り組みについて現状を把握。
- ②リサイクル交流センターと、クリーンランドのリユースコーナーの2点について、現状では不十分であり、それぞれパワーアップが必要と確認。
- ③リサイクル交流センターに関連する取り組みを実施。

施設見学（2010年11月9日）

減量推進課からのヒアリング（2010年8月4日）

環境政策室からのヒアリング（2012年1月20日）

くるくる大作戦の実施（内容は8ページ）

④クリーンランドに関連する取り組みを実施。

施設見学（2010年8月4日）

クリーンランド業務管理課からのヒアリング（2012年2月27日）

⑤上記①～④のまとめとして、「リユースに関する提言」（本内容）を作成。

提言をもって、リユースグループの活動を終了する。

(5) くるくる大作戦の開催

- ・日 時：2011年9月15日(木)～17日(土) 各日とも午前11時～午後4時
- ・場 所：リサイクル交流センター ロビー

・イベント内容・出展団体

内容	担当するメンバー・団体	15日(木)	16日(金)	17日(土)
バザー	国際交流の会とよなか(TIFA)	—	○	—
陶器とりかえ隊	赤ちゃんからのESD	○	○	○
修理相談	リユースプロジェクトメンバー	○	○	○
刃物とぎ	リユースプロジェクトメンバー	○	○	○
とよっぴーの頒布	NPO アジェンダ 花と緑のネットワーク	○ (13～15時)	○ (13～15時)	○ (13～15時)
手芸コーナー	藤岡和江さん (リサイクル交流センター元職員)	—	○ (13～15時)	—
リユースコーナー	豊中市伊丹市クリーンランド	○	○	○ (16時抽選)
焼きドーナツ販売	第二工房羅針盤	○	○	—

・来場者、募金

	来場者数	スタッフ	募金額
15日(木)	18人	15人	3,950円
16日(金)	13人	22人	2,700円
17日(土)	19人	9人	3,926円
合計	50人	46人	10,576円

※募金は半額を東日本大震災の義援金、半額を台風12号豪雨災害の義援金として送付

・シール貼りの結果(来場者に行事を知った方法を聞く)

	広報	チラシ	知り合い	通りかかり	別件で来た	その他
15日(木)	2	2	6	6	0	0
16日(金)	3	1	0	4	1	0
17日(土)	2	1	1	5	4	1
合計	7	4	7	15	5	1

※全員に聞けていないことや親子の場合はシール1枚のため、来場者数とは一致しない

※チラシ：岡町図書館(1人)、くらしかん(1人)

※その他：前日も参加したから

・その他 とよっぴーの頒布数 12個

リユース品の応募 展示11点中6点に申込(5点は申込なし)